

南アフリカの商業と工業

木 下 龜 城

〔商業〕 鑛業の國であり且つ又農業の國である南アフリカには、商工業に大して見るべきものはないのは勿論であるが、一九一〇年南阿聯邦が作られて以來長足の進歩の跡が見られ、それと共に商業並びに工業上の施設に於ても著しい變化があつた。

南阿聯邦の海外貿易は輸出入合せて、一九一〇年には九千萬磅だつたのに、一九二七年には一億七千萬磅、一九二八年には一億七千六百萬磅に達した。又國內の製造工場は最近では略内地の需要を満し、諸方の工場よりの製産高は一九一一年の千七百萬磅から、一九二六—七年の

九千八百萬磅に増加した。尤も此間に物價は約三割乃至四割の騰貴を來してゐるが、それにしても商工業の一大發展したことは是等の數値からでも窺ひ知り得る所である。

〔輸出〕 輸出は一九一〇年には五千四百萬磅に過ぎなかつたのに、一九二七年には九千六百萬磅、一九二八年には九千七百萬磅に達した。其大部分を占めるものは鑛産物か然らずんば農産物で、殊に鑛産物は斷然其過半を占てはゐる然し近年は農業並びに牧畜の進歩發達に従つて農産物の漸次増加してゐる事は、次の表を見ても一目瞭然であらう。

南阿聯邦の輸出（一九一〇—二七年）

年度	鐵 産 物	農 産 物	其 他 の 産 物	百 分 比
一九一〇	四、九六六、〇〇〇 磅	九、四四五、〇〇〇 磅	三、一三六、〇〇〇 磅	四%
一九二六	四八、五六六、〇〇〇	三、九三六、〇〇〇	四、一六六、〇〇〇	六%
		七五%	二一〇%	

1911	1912	1913	1914	1915
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
100%	100%	100%	100%	100%

1916	1917	1918	1919	1920
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
100%	100%	100%	100%	100%

此表でも明かな様に何れの産物も實質的には漸次増加してはゐるが、鑛産物の比率は一九一〇年以來遞減の傾向を示し、反對に農産物には著しき増加が見られる。然のみならず南阿から輸出される鑛産物は國內に産する殆んど全部のものであるが、農産物は國內で直接若くは間接に消費される量が、人口の増加と共に益々多くなつてゐることを考へれば、是が國內經濟の上に如何なる位置を占つゝあるかは自明のことである。さは言へ鑛産物は依然輸出の大半を占め南阿の購買力を培つてゐるものである。

鑛産物の内で最も著しいものは金で、其輸出額は一九二七年には全輸出の四割五分に當り、世界に類例を見ない處である。且つ南阿の金は殆んど變調を呈せず累年増産をつゞけ、一九一〇年から一九二七年迄に増加した鑛産物の輸出額千八百三十萬磅の内、千百七十萬磅は金により、又三百八十萬磅は金剛石によるものである。

此二十六年間にだけ石炭の輸出額は二百萬磅、錫の輸出額は十八萬磅を増加したが、唯銅だけは四十九萬磅から四十七萬七千磅に減退した。

近年は更に種々の賤金屬の開發に注意する、様になつて、石綿の輸出は一九一〇年の二萬六千磅から一九二七年には十八萬九千磅となり、格魯謨鐵鑛、螢石、及剛玉は一九一〇年には殆んど輸出を見なかつたが、一九二七年には各々四萬三千磅、一萬三千磅及九千磅の輸出を見るに至つた。是等の鑛物の輸出は種々なる障害のため、遅々として進歩しないが、將來の發達は大いに期待されてゐる。猶滿俺や安質母尼の開發も最近大規模的に計畫さるゝに至つた。

以上の外、鑛産物の輸出貿易として最近に發達したものに、白金とオスミリヂウムとがあつて、一九一七年に於ける輸出額は前者は十四萬四千磅又後者は五萬四千磅に達した。

次に最近十八ヶ年間に於ける農産物の輸出の

増減を示せば次表の様になる。

輸 出 増 加		輸 出 減 少	
品 名	一九一〇年	一九二七年	増 加
羊 毛	三、二〇〇,〇〇〇 磅	一、一〇〇,〇〇〇 磅	三、三〇〇,〇〇〇 磅
獸 皮	一、〇一〇,〇〇〇	三、七五七,〇〇〇	二、七四七,〇〇〇
玉蜀黍及同製品	五五〇,〇〇〇	二、〇五五,〇〇〇	一、五〇五,〇〇〇
樹皮及エキストラクト	三三〇,〇〇〇	一、二二〇,〇〇〇	九八〇,〇〇〇
生 果	三〇〇,〇〇〇	八五〇,〇〇〇	五五〇,〇〇〇
砂 糖	三六〇,〇〇〇	七四〇,〇〇〇	三八〇,〇〇〇
禽 卵	—	三三〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇
生 肉	八,〇〇〇	一七〇,〇〇〇	一六二,〇〇〇
棉	—	一七〇,〇〇〇	一七〇,〇〇〇
乾 果	—	一六〇,〇〇〇	一六〇,〇〇〇
煙 草	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	—
酒 精 及 酒 類	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	—
果 物 罐 詰	—	六,〇〇〇	六,〇〇〇
合 計	—	三、八七〇,〇〇〇	三、八七〇,〇〇〇
輸 出 減 少		減 少	
駝 鳥 羽 毛	二、三三三,〇〇〇 磅	四,〇〇〇 磅	二、三二九,〇〇〇 磅
山 羊 毛	九三,〇〇〇	八六,〇〇〇	九,〇〇〇
合 計	—	二、三三四,〇〇〇	二、三三四,〇〇〇

農産物の輸出の増加は差引千八百五十萬磅と

南亞米利加の商業と工業

なるが、此内千三百三十萬磅は單に羊毛だけによるものであるが、其取引の増加は羊毛の實量に於て一億二千二百萬封度から二億六千萬封度に増加したのと、一封度の平均價格が七片から一志三片に昂騰したのとに因るものである。斯く羊毛の輸出の盛んになつた結果、農民の購買力が著しく高まつたばかりでなく、羊牧業が累年盛になり、今では南アフリカの最も重要な資源の一となつた。

金其他の礦産物の場合と同じく、羊毛の産額も大部分原料のまゝ輸出さるゝもので、國內で加工さるゝものは殆んどなく、樹皮及エクストラクトでも、國內でタンニンの製造に費はるゝものは年々四萬磅に過ぎず、獸皮でも亦此轍を出でず、一九二七年の輸出額三百七十八萬七千磅に對し、國內で鞣されたものは五十萬磅に過ぎない。

是に反して玉蜀黍及其製品の輸出額は、國內消費額の約三分の一に過ぎず、砂糖、生果、乾果、及鶏卵に於ても殆んど同様の關係にあり、

生肉、乾肉、煙草、酒類等に至つては僅に一小部分が輸出さるゝだけで、一九一〇年には先づ輸出を見なかつたと云つて好い位である。然し最近十年間に此方面に著しい進歩が行はれ、尙將來の發達が大いに期待されてゐる。

『其他の產物』と云ふ名目の内に入れたものの、中最も多いのは、海外から輸入したものを南アフリカの隣接諸國に再輸出するもの、若くは聯邦國內で製造したものを是等の國々に輸出するものであるが、是等を外にしては魚類、蝦魚、鯨油、及鯨肥其他の副產物等が重なるもので、一九二七年に於ける輸出額は各々八萬九千磅、二十萬三千磅、三十三萬磅及十一萬二千磅に達した。

〔輸入〕 輸入も亦一九一〇年の三千七百萬磅から一九二七年の七千四百萬磅に過去二十七年間に二倍となり、一九二八年には更に七千九百萬磅に騰つた。

輸入品として最も重なるのは、織物、器械、金屬製品の如き加工品で、殊に織物は一九一〇年

の九百萬磅から一九二七年には千八百三十萬磅となつて十割三分の増加を來たしたが、衣類（下着、莫大小、帽子等を含む。但靴類を除く）では、三百二十五萬磅から五百九十萬磅に八割の増加を見たに過ぎない。是は聯邦國內に製服工業の勃興した爲で、綿毛反物の輸入が百八十八萬磅から五百萬磅に増加した事からも知る事が出来る。國內では未だ布帛の製造は行はれぬが、衣類の製造が漸次盛んになつてゐるので、反物類の輸入は今後益々盛になるものと見られる。此外尙注意すべきことは穀物、石炭、羊毛等の產物を入れる袋の原料として、黃麻の輸入が三十四萬磅から百二十萬磅に増加したこと、是等は國內各所小規模な製袋工場に送られてゐる。

金屬、器械、車輛其他金屬製品の輸入は、一九一〇年の千七十萬磅から一九二七年には二千四百三十萬磅に増したが、其内六百萬磅は器械五百萬磅は自動車の輸入に基くものである。器械類では農業用器械及工業用器械の輸入が著しく増し、電氣用器械も幾分増加した。是に反し

て鑛業用器械の輸入は多少減少したが、それでも年々百萬磅以上の輸入が行はれてゐる。自動車の輸入も一九一〇年の三十一萬磅から一九二七年には五百萬磅に増加したが、自動車による交通運輸は今後更に發達する望が充分にあるから、假令自動車の輸入は今後増加せぬとしても現狀を維持することは確かである。金屬では最近國內に製鐵事業が興つて來たのにも拘らず、塊鐵、鐵板、鐵管、鐵棒等の輸入が一九一〇年の六十萬磅から百三十萬磅に増加した。尤も近い將來にプレトリア製鐵所から製品を出す様になれば、輸入もブット減少する様になるだろう。此鐵及鋼の輸入が急激に増加したのは國內に鑄造所が發達した爲であるが、鐵及鋼以外の金屬の輸入増加は平均増率以上に出ておらぬ。

其他の物品で近年特に輸入の多くなつたものは、ガソリン、パラフィン、鑛油等で一九一〇年には四十二萬磅に過ぎなかつたのが一九二七年には二百三十萬磅となり、タイヤ類も亦一九一〇年の三萬磅に對して一九二七年には百萬

磅に達し、寶石、時計、運動具、玩具、樂器、寫眞及活動器械等に於ても二百萬磅の輸入を見た。以上記載した以外のものでは過去二十年間に國內の人口は増加し消費高も是に伴つて増し價格も亦昂騰してゐるに拘らず輸入額は却つて減少した。例へば靴類は百十九萬磅から九十五萬磅に減じ、家具類は三十六萬磅から十六萬磅に減少した、又印刷物、文房具、石鹼、蠟燭、菓子、ジャム、藥品、燐寸等に於ても平均率以上の増加を見ない。是は國內に漸次起つて來た工業によつて充分供給されるに至つた爲めである。

又一九一〇年以前には年々決つて輸入されてゐる牛酪、乾酪、卵、ベーコン及ハム、肉、砂糖等は全く現在では輸入を見なく、或は假令輸入されても極少量に過ぎず、砂糖、肉、卵等は却つて輸出さるゝ様になつた。

最後に麥及麥粉の様な食料品を一九二七年には百七十萬磅輸入してゐるが、是は國內に消費さるゝ總量の三分ノ一に當り、米六十二萬九千

磅、コーヒ約百萬磅、茶九十萬磅、練乳三十萬磅等が其重なるものである。

〔工業〕 南阿聯邦國內の製造工業は一九一一年には約千七百萬磅の生産があつたのに過ぎなかつたが、一九一五—一六年には四千萬磅、一九二三—二四年には八千萬磅、一九二六—二七年には九千八百萬磅と云ふ風に著しい發達をなしてゐる。

一九一〇年以前には鑛業に關連した多くの分工業があるにはあつたが、何れも小規模のものに過ぎなかつた。然るに一九一〇年から一九一四年までの間に千六百以上の新しい工場が造られ、政府も亦一九一四年に種々の物品に甚だ高率の輸入税を課して是を保護した。斯く多數の工場が出來製造能力が増大したが、其當初には猶種々なる困難があつた。然し適々世界大戰に會して船舶の不足から船賃の著しく昂騰したのに刺戟され、國內に豊富なる原料を有してゐることゝ相俟つて、國內の工業も漸く盛となり稍大規模的に行はるゝに至つたが、政府も亦機會

ある毎に數次の關稅の改正を行つて保護政策を採つたので、今や稍強固なる基礎の上に確立するに至つた。即ち是等の種々な條件に促されて南阿の工業は世界大戰の勃發した一九一四年から發展期に入り、製造工業の眞價が原料と製産物との價格の相違からマザ／＼と感ぜらるゝに至つて愈々盛となり、一九一五—一六年に於ける製産物の原價千八百萬磅は、一九二六—二七年には四千七百五十萬磅となり、過去十一年間に十六割四分の増加を來した。

近年の工業發達の大部分は政府の經濟政策によつてゐることは勿論であつて、一九二五年以前には一率に二割の關稅を掛けてゐたのが、同年の改正で國內の工業に打撃を及ぼす様な既製品に對して稅率を上げたばかりでなく、今迄無稅で輸入されてゐた、工業原料並びに半製品や國內では全く産せぬ物品に迄も課稅するに至つた。唯鑛業や農業に必要缺くべからざるものは免稅し、又國內工業の製産費を騰貴せしめ、引いては國民一般の生活費を増加せしむる懼ある

ものは努めて低率の課税によつて保護する様にされた。

工業調査の分類につ從て南阿の重要工業を掲げると

(一)穀粉。麵麴。ビスケット。菓子。ジャム
ジェリー。貯藏用果物。魚類。獸肉。ハム
及ベーコン。牛酪及乾酪。砂糖。清味飲料
水。酒類。煙草類等の製造は一九二六—二
七年には大略三千八十萬磅を産し、其原料
千二十萬磅に達したが、其中心地はケー
半島で全産額の四分ノ一を産してゐる。

(二)鑄造業、鐵鋼業、錫銅鐵等の熔煉、鑛山
又は鐵道用工業、鍛冶、ボンブ製造、製線、
門垣等の製造等に關するものは、一九二七
年には二百十萬磅を産し、其原價千六十
萬磅に達したが、ウキットウオースラ
ンドを重要中心とし、全體の約半分を産し
てゐる。

(三)建築、灌溉工事 築港、下水、橋梁等の
工事は一九二六—二七年に工事費總額九百

四十萬磅を要し、其實費は四百九十萬磅に
達した。

(四)爆發藥、肥料、石鹼、蠟燭、燐寸、塗料
防腐劑、タンニン、炭酸瓦斯、滑劑、藥品
等の製造は一九二六—二七年には總額六百
四十萬磅、原價二百八十萬磅に達し、ダー
バンが其中心地をなして全國產出高の三分
ノ一を出し、ウキットウオースランド
及ケー半島が是に亞いてゐる。

(五)印刷物、文房具等は總額四百八十萬磅、
原價三百五十萬磅。

(六)仕立業、洗濯業、染織業、毛布、莫產、絨
等の製造は總額四百萬磅、原價二百萬磅。

(七)皮革及皮革加工業は總額三百五十萬磅、
原價百三十萬磅。

(八)セメント、煉瓦、タイル、石灰、硝子等
の製造は總額三百二十萬磅、原價二百五十
萬磅。

(九)家具及室内裝飾は總額二百萬磅、原價百
十萬磅を算した。

最近五ヶ年間に新に起つた工業としては綿毛布、フェット帽子、自動車々體、洋燈、釘、ボルト、及物、シャベル、鑄鐵、ペーキング・パウダー、藥品、革細工、衣服等の製造業があるが是にもまして重要なのは從來から行はれてゐた既成服(襯衣、ビジャマを含む)、菓子、靴、印刷物及文房具、家具、石鹼及蠟燭、ホース其他のゴム製品、セメント、曹達灰、練乳、ペーコシ及ハム、粘土及石綿製品等の製造で、是又近年大いに進歩したばかりでなく、今後更に一段の發達をする望がある。

國內の製造工業の原料なり半成品の約半分は國產品であるが、残りの半分は國外に原料を仰がねばならぬので、工業の發達は國內の農産及鑛產品の賣買を盛んならしむると共に、外國貿易をも盛んらしめてゐる。

南阿國內の乾燥地域は甚だ廣大な面積を占めてゐるので、灌漑事業は目下南阿聯邦の直面してゐる最も大きな問題の一つである。政府では灌漑局なるものを設け多數の技術者を使つて國

内の最も豐沃な地方の灌漑を計畫してゐるが其事業は甚だ困難なもので、一九二六年に計畫されたものの丈けで百二を下らないが、完成されたものは此内の七十七計畫だけで、三百五十萬磅以上の經費を要し、一九三、六三八モルゲン(一モルゲンは二・一一六五四エーカーに當る)即我一六七、二一六町歩を耕作し得る様にならしめた。

南阿の製造業者は斷えず直面する困難を出来るだけ輕減する爲に、多くは請負の形式をとつてゐる。而して鐵道關係の工場七十五に達する以外の工場の一期の賣上高は、過去八年間に七百萬磅を増加し、最近では一千萬磅に達したが、是は國內の工業による一期間の全賣上高の一割二分八厘に相當してゐる。(三六)